

令和 5 年度

教職課程
自己点検評価報告書

令和 6 年 4 月
愛知学泉大学

目次

I	教職課程の現状及び特色	3
II	基準領域ごとの自己点検評価	5
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	5
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	11
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	16
III	総合評価	21
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	23
V	現況基礎データ一覧	24

I 教職課程の現状及び特色

1 現況

(1) 大学名：愛知学泉大学家政学部

(2) 所在地：愛知県岡崎市舩越町上川成 28

(3) 学生数及び教員数（令和 5 年 5 月 1 日時点）

学生数：160 人（教職課程履修者数）／610 人（大学全体）

教員数：22 人／37 人

2 特色

学校法人安城学園・愛知学泉大学は、寺部だいが、明治 45 年に安城裁縫女学校を創立したことを起源に誕生している。本学は、女学校創立時の「女性が『生きる意志』と『生きる力』と『生きる喜び』に満ち溢れた人生を送るためには、経済的・政治的・文化的自立が不可欠である。」という考えを礎にしている。本学の目的は、「建学の精神」の実践を通して、創立者が目指した経済的・政治的・文化的に自立できる社会人を育成することによって、地域と国際社会に貢献することである。そのために「智性・徳性・身体・感性・行動」をバランス良く鍛え上げる自学・共学システム「学びの泉」を開発・実践している。

それを受け、家政学部では、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa 型学力を統合的に身につけ、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成している。

ライフスタイル学科では、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を養成している。その中に、中学校教諭一種免許状（家庭）と高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得するカリキュラムを設定している。

管理栄養学科では、「食」の専門家として疾病治療、重症化予防、疾病予防、食育・食環境の整備等、管理栄養士の資格を生かした各分野で活躍する人材を養成している。その中に、管理栄養士国家試験受験資格に加え、栄養教諭一種免許状を取得するカリキュラムを設定している。

こどもの生活学科では、子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てる

ことによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を養成している。その中に、保育士資格と幼稚園・小学校教諭一種免許状を取得するカリキュラムを設定している。

いずれの学科も、本学園の「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して、教育実践現場の理解や実践的指導力を身に付ける機会を充実させ、子どもを取り巻く環境を理解し、子どもに寄りそった教育が実践できる教員養成を目指した教職課程を展開している。

Ⅱ 基準領域ごとの自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

[現状説明]

愛知学泉大学は、建学の精神及び教育理念に基づき、教育目標を達成するための卒業時の到達目標として学位授与の方針であるディプロマ・ポリシーを定めている。3学科とも共通して、学士の学位を授与するにあたり、①「建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、②「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」ことを定めている。家政学部の教育目標と、上記①②の下、各学科で重視している教育理念は以下の内容である。

ライフスタイル学科では、「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付け、地域再生に貢献することができる」である。

管理栄養学科では、「『食』の専門家として疾病治療、重症化予防、疾病予防、食育・食環を整えるための高度な知識と技能を持ち、人々の日常生活を健康の面から支援できる」である。

こどもの生活学科では、「現代のこどもの生活問題に対する認識と現実の保育および教育現場での課題に対する見識を深め、専門的な知識と技能を身に付け、現代の子育て問題や教育再生、地域再生に取り組むことができる」である。

各学科は上述の方針のもと教職課程を設置している。各学科で目指す家庭科教諭、栄養教諭、小学校教諭等の免許取得における教職課程教育の目的・目標は、各学科の重視している内容と重なっている。そのことを全教職員が理解して、単位認定、卒業認定等を厳正に行っている。

[長所・特色]

各学科とも、教職課程教育プログラムを編成している。

ライフスタイル学科では、教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、中学校、高等学校の教諭（家庭）免許が取得できるカリキュラムを編成している。授業方法は、以下①～③の3点に焦点を当てて、講義に加え事例研究・模擬授業・集団討議を行っている。

①教育課程、指導法について学びながら、学校における教育の意義や中学校、高等学校教諭の職務内容を理解する。②模擬授業を通して、教育指導の実践能力を養う。③教育実習を通して、指導の重要性を体験的に確認し、中学校、高等学校の教諭としての使命感、責任感を養う。

管理栄養学科では、教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、栄養教諭免許が取得できるカリキュラム(18科目で構成)を編成している。授業方法は、以下①～③の3点に焦点を当てて、講義に加え事例研究・模擬授業・グループ討議・ロールプレイング等実践的な学修を行っている。①学校における食育のあり方や栄養教諭の職務内容の理解等栄養教諭に必要な食育基本法や学校給食法等を学修する。②食育の模擬授業や肥満・やせ、食物アレルギー等栄養教諭に必要な個別指導の実践能力を育成する。③小学校(中学校)の役割・組織及び栄養教諭の職務内容に関する理解を通して、栄養教諭としての使命感と責任感を育成する。

こどもの生活学科では、小学校教諭(幼稚園教諭含)免許を取得するための教科教育カリキュラムを編成し、教育の現場で活躍するための専門的知識・技能を学修している。授業方法は、以下①～④の4点に焦点を当てて、講義に加え事例研究や模擬授業、集団討議など行っている。①教育法規を通して、学校教育の意義・小学校教諭の職務内容を理解する。②小学校の組織・職務内容を通して、教諭としての使命感・責任感を養う。③小学校の模擬授業を通して、教育指導の実践能力を養う。④幼稚園の組織・職務内容の理解とともに、実践的な指導能力を養う。

[取り組み上の課題]

教職課程教育の目的・目標を3学科で今以上に共有することが必要である。教職課程については、本学の建学の精神及び教育理念に基づいたディプロマ・ポリシーを受け、コアカリキュラムや学習指導要領等が示す教育方針を踏まえて編成している。そして教職を目指す学生に必要な学修内容をシラバスなどに明記している。それを受け、各学科は教職課程教育を適切に実施している。しかし、学科ごとの目的や目標を他学科所属の教員へ共有できているとは言い難い。現在、学科間の情報連絡は教職課程委員会が担っている。教職課程教育の学部全体での取組促進のためには、教職課程センターのような機関を設置することがよいのではないかと考えている。

<根拠となる資料・データ等>

資料1-1-1 愛知学泉大学 キャンパスライフ 2023「愛知学泉大学学則」pp.137-149.

資料1-1-2 愛知学泉大学 キャンパスライフ 2023「愛知学泉大学の3つのポリシーに関する細則」 pp. 82-98.

資料1-1-3 家政学部の重点目標と事業計画(教職課程委員会)

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

[現状説明]

愛知学泉大学は、教職課程認定基準を満たすにあたり十分な教育研究業績のある教員および実際に教育現場での経験のある教員を配置している。また、教職課程に関する指導のための「教職課程委員会」を大学運営機構のもとに設置している。当委員会は必要に応じて教務委員会と連携を図り、教職課程の位置づけを常に点検し、ディプロマ・ポリシーに基づく教職課程の適正な運営ができる体制を整えている。

教職課程の核に位置付けている教育実習では、実務経験のある教員を実習担当者として配置し、各現場が必要としている人材を実習に送り出す教育実習指導を行っている。教務課が教育委員会や各学校等との連携を調整し、教育実習指導担当の教員と連携をしながら推進している。

教職課程に関する組織的な工夫としては、授業での疑問点や関心のある問題への取組方等の勉学に関することや、教職に就くときなどの進路に関する相談があれば研究室を気軽に訪ねることのできる「オフィスアワー制度」を実施している。これは教員が提示した時間は研究室に在室して学生からの質問や相談に対応するものである。時間の許す限り対応している。

教職課程教育を行う上で、教務課、就職課、学生募集課、総務課および IR 室、情報教育委員会、図書委員会と連携して、学生が学修しやすい環境の整備に努めている。設備については、講義室、演習ゼミ室のほか、教育実習指導や教育実践演習に必要な調理実習室・栄養教育実習室・給食経営管理実習室・小児保健実習室・被服構成等実習室・食品加工等実験室（理科室）・実習食堂・音楽ホール・ピアノ練習室・音楽教室・視聴覚室・情報処理演習室・体育館・トレーニング室・幼児体育室・造形教室・美術教室など、各学科の取得免許に応じた施設を配置している。各教室には、情報教育委員会とタイアップして、教職課程教育に必要なプロジェクタやスクリーン、コンピュータ・タブレット・電子黒板・DVD やブルーレイ再生機・配信収録機器・実物投影機など ICT 機器を設置し、教職課程における学修や模擬授業等に効果的に活用している。

図書館は、令和 6 年 4 月 1 日時点で蔵書数は、約 15 万冊超、雑誌タイトル数はバックナンバーも入れて 479 種類を有している。閲覧席は 246 席を備え、外部データベースや全国図書館の複写サービスを利用可能なネットワークに加盟し、各学科の教職課程における教科・教職科目の学習に十分な資料を用意している。

[長所・特色]

教員養成課程は、基準項目 1-1 「教職課程教育の目的・目標の共有」で述べたカリキュラム編成方針と深く関係している。これを受け、各学科のディプロマ・ポリシーに結びつけることができるよう、教員養成課程を有する学科の教員等で構成された「教職課程委員会」において各教職課程カリキュラムを管理運営している。

教職課程の質については、各学科とも、GPA 分布、単位取得状況、教職履修カルテ等をもとに学科会議において定期的に点検している。実習・演習科目については専任教員が中心となって指導している。学修の環境整備については、新型コロナウイルスまん延以降 ICT 教育環境を整えている。特に Google classroom を利用して、学修機会及び授業の質を担保している。

ライフスタイル学科は、科目の配当年次を定期的に見直し、平成 31 年度からは家庭科教員としての学習指導の核となる科目「家庭科教育法 A・B・C・D」の 4 科目について、2 年前期・2 年後期・3 年前期・3 年後期にそれぞれ配置し、4 年次の教育実習前にすべて履修して、教育実習では実践力を発揮できるようにした。教職履修カルテは 1 年前期より半期ごとに作成・提出させて、一人一人の学修状況を把握して、学修改善の指導を行っている。介護等体験実習および教育実習の学外実習の履修要件は、全ての教職科目を履修済みであることとしており、教職への意識を高めて学修するように指導している。毎年 8 月には、主に愛知県内の現職教員を対象とした「家庭科教員セミナー」を実施している。他大学の専門家を講師として、ICT の活用や LGBTQ、消費生活などのテーマについて講義・演習をしている。このセミナーへ学生も参加できるようにして、教職課程での学びをさらに広げる機会を提供している。

管理栄養学科は、栄養教諭経験者 1 名を配置して学校栄養指導論、実習指導等を担当し、その他の科目についてはこどもの生活学科やライフスタイル学科の教員が担当している。免許取得に関わる履修状況については科目担当者や担任、教務委員が把握し、学科全体で共有している。

こどもの生活学科は、小学校教育・幼児教育の現場経験者を積極的に採用し配置している。また、同学科では、専任教員による担任制を敷き、相談期間を設定して、免許資格取得状況、免許資格に関連する他の資格の取得状況を把握・支援している。

[取り組み上の課題]

教職課程の学修は 3 学科で共通している点が多いため、今以上に 3 学科をまとめる教職課程センター的な機関を設置することが、教員免許取得件数、教員就職率の増加につながる

と考えている。今後、学生が教職に就いた時には、ICT 化がさらに進むと考えられる。今以上に ICT を活用した模擬授業等の演習が充実するように、本学の情報教育委員会と連携して、教職課程教育を行う上での施設設備を充実させる必要がある。各教科の指導法の充実のために、図書館の図書については、免許取得に関する教科用図書と指導書などは、大学の地域の学校等が実際に使用している出版社のものを揃える必要がある。教員採用試験の参考書なども蔵書が少ないため、令和5年度は教職課程委員会と図書館が連携して購入数を増やして学生が利用しやすくなる専用コーナーを設置し始めた。

〈根拠となる資料・データ等〉

資料1-2-1 愛知学泉大学 キャンパスライフ「愛知学泉大学の3つのポリシーに関する細則」 pp. 82-98.

資料1-2-2 愛知学泉大学 キャンパスライフ「オフィスアワー」 p. 12.

資料1-2-3 愛知学泉大学 キャンパスライフ「施設紹介」「施設等利用規則・図書館利用規則」 pp. 59-65.

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2－1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

[現状説明]

本学は、建学の精神及び教育理念に基づき、入学者受け入れの方針であるアドミッション・ポリシーを各学科で定めている。それぞれの免許取得を目指す学生の根底に据えるべき内容となっている。よって、教職課程に即した適切な人材を受け入れていると言える。

ライフスタイル学科では、暮らしに関わる様々な事象に強い関心を抱き、より良い生活のあり方を提案しうる能力を持った生活者及び、衣・食・住および地域活性のエキスパートとして社会に貢献したいという意欲を持った人を受け入れている。

管理栄養学科では、栄養学に強い関心を抱き、「疾病治療」・「疾病予防」・「食育・食環境の整備」などの分野で管理栄養士として社会に貢献したいという意欲を持った人を受け入れている。

こどもの生活学科では、子どもの教育・保育に関して強い関心を抱き、この分野の専門家として社会に貢献したいという意欲を持った人を受け入れている。

アドミッション・ポリシーは、各学科とも「学生募集要項」等と合わせて、高校生対象の「なるには講座」、「高校訪問」、「新入生ガイダンス」を通じて、各学科が志願者に求める資質能力を公開している。とりわけ、オープンキャンパスでは、学科ごとにアドミッション・ポリシーの説明を丁寧に行っている。また、入試においても、試験官の評価指標に明記している。入学者にはアドミッション・ポリシーからディプロマ・ポリシーに向かう教育目標を示すとともに、教育課程編成・実施の方針カリキュラム・ポリシーの下、教員養成をおこなっている。

[長所・特色]

各学科は、アドミッション・ポリシーに適合する意欲や基礎的学力を基盤とした学生を受け入れ、多様な進路に結びつく学修プログラムの一つとして教職課程を有している。入学者を対象とした説明会実施による当プログラムの周知・理解、プログラム過程における価値観や志向態度の能力の育成に努めている。教職を担うべき適切な学生の育成のために、教育の現場で活躍するための専門的知識・技能を学修し、法令等に適合した適正な授業の実施・教員養成を行っている。各学科の教職課程教育プログラムにおける育成のための授業方法は以下のとおりである。

ライフスタイル学科の授業方法として、家庭科教諭免許取得のために、講義に加え事例

研究・模擬授業・集団討議を行っている。具体的には、①教育課程、指導法について学びながら、学校における教育の意義や中学校、高等学校教諭の職務内容を理解する。②教員の組織・職務内容の理解や実習体験による中学校、高等学校の教諭としての使命感、責任感を醸成する。③模擬授業を通じた教育指導の実践能力を育成する。

管理栄養学科の授業方法として、栄養教諭免許取得のために、講義に加え事例研究・模擬授業・グループ討議・ロールプレイング等実践的な学修方法を取り入れている。具体的には、①食育基本法や学校給食法等、教育法規を通じた栄養教育の意義や在り方栄養教諭の職務内容を理解する。②栄養教諭の組織及び職務内容の理解や実習体験による栄養教諭としての使命感と責任感を醸成する。③食育の模擬授業や肥満・やせ、食物アレルギー等栄養教諭に必要な個別指導の実践能力を育成する。

こどもの生活学科の授業方法として、小学校等教諭免許の取得のために、講義に加え事例研究や模擬授業、集団討議などの学修を取り入れている。具体的には、①学校教育法等、教育法規を通じた学校教育の意義や在り方・小学校教諭等の職務内容を理解する。②教員の組織・職務内容の理解や実習体験による小学校教諭等としての使命感・責任感を醸成する。③各教科や道德の模擬授業を通じた、実践的な指導能力を育成する。

[取り組み上の課題]

ここでの課題は、教員の魅力を伝える教職指導を充実させることである。ライフスタイル学科は1年時に定員の約半数20名程度が履修する。管理栄養学科は栄養教諭を目指して入学してくる学生は多くなく教職課程の履修は4分の1程度である。こどもの生活学科では、保育士資格・幼稚園教諭・小学校教諭の三つの免許が取得でき、多くの学生の第一希望は保育士という現状である。教職を目指す学生を少しでも増やすために1年生時から、教員免許取得に関する教科や教職シンポジウム等で、教員の魅力を伝えていく必要がある。また、教職を目指すという進路選択の意思が決まらず、採用試験に対する取組が遅延する学生も存在する。そのような学生に、今以上に丁寧な個別指導を行う必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

資料2-1-1 愛知学泉大学 キャンパスライフ「愛知学泉大学の3つのポリシーに関する細則」pp. 82-98.

資料2-1-2 学生募集要項（ホームページ）<https://www.gakusen.ac.jp/u/>

資料2-1-3 大学案内

資料2-1-4 なるには講座一覧

資料 2-1-5 入学ガイダンス案内

資料 2-1-6 オープンキャンパス実施計画

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

進級・就職は、入学から始まる学生生活の延長線上にある。入学時における学修のつまずきは、教職への道を閉ざすものとなる。教職を目指すための土台を作るために、リメディアル教育プログラムを実施している。本学は、読解力、数読理解（計算含む）をリメディアル教育内容として設定し、1年次に専門科目を学ぶための導入教育として配置している。基礎学力が不足していると判断された学生に対しては補習を実施している。

2019（平成 31・令和元）年度からは、1年生に対して読解力を備えることを目的として「リーディングスキルテスト（RST）」を実施している。2022（令和4）年度からは4年間での読解力の成長を測るために、2019年度入学生である4年生にも実施して、学修成果の可視化に努めている。

教職に関するキャリア教育プログラムでは、卒業後に教員として自立して生きていくための能力を育成し、人生に必要な様々な力を修得するために、教職の指導法に関する科目や教職の基礎的理解に関する科目等の学修を中心に学修している。特に教職に関するキャリア支援では、各種の実習とその事前・事後指導を通して、教育職に就くための能力と組織の中で働く責任感や使命感を育成している。また、教育職の現場で働く社会人や諸先輩の話を聴き、自分がどのような適性を持ち合わせているかを考え、社会に対してどのように貢献していくかを考える力を育成している。こどもの生活学科では、教職保育特論として教員になるための基礎講座や、学校等のボランティアであるエクスターンシップを位置付け実施している。

教職課程委員会主導で、各自治体の教育委員会の人事担当指導主事の来学を要請した「教員採用試験説明会」、専任教員による「教員採用試験対策講座」を開設している。また、例年8月には、現職教員を招いての「教職シンポジウム」や「家庭科教員セミナー」を実施している。教職へのキャリア支援として、教職に就くときなどの進路に関する相談があれば研究室を気軽に訪ねることのできる「オフィスアワー制度」を実施している。

〔長所・特色〕

本大学には教職課程センターはないが、学科の教職課程委員がオフィスアワー以外にも、教職に関する相談・採用試験の支援・就職課からの採用試験情報の橋渡し等、きめ細やかに教職に関するキャリア支援を行っている。特色としては、各学科の教職課程委員の研究室で、「教育の在り方」「教育の難しさ」「子ども理解のあり方」「保護者への対応」等、

時間をかけた話し合いが行われていることである。その深い話し合いにより、教員採用試験に合格して教員に就職しても、すぐに辞めてしまう者はいない。教員採用試験に合格しなかったとしても、講師を続け、何年かけても教員になるという強い意志を持ち続ける卒業生がほとんどである。「教職シンポジウム」はこれまでに5回の開催を数え、現場の教員の話聞くことで、教員になるという道を固めることや、進路を迷っている学生に役立っている。「家庭科教員セミナー」毎年1回のペースで、これまでに21回開催している。愛知県内の中学校・高等学校の現職教員の研修の場として設定し、ジェンダーマイノリティや金融、防災、ICT など社会情勢や新学習指導要領に対応した学習指導のあり方を学習する機会となっている。このイベントに教職課程履修学生の参加を認めており、現職教員が研修する姿を間近でみる事ができている。学校等のボランティア（エクスターンシップ）も教員になるという意志を固めることに役立っている。

[取り組み上の課題]

ここでの課題は、教職に就くための早期支援である。上述のように、読解力をつけさせ、その成長度合いを測るためにリーディングスキルテスト（RST）を導入しているが、残念ながら期待する効果は表れておらず、今後の全学的な対応、検討が必要である。本学では、入学時から教職を目指すしてもらうよう教職のメリットを学生に話している。しかし、学生自身の人生であり、迷う時期を否定するわけにもいかない。そこに大学教員としての葛藤が生まれている。教職に関する学修の充実を保障しつつ卒業後の進路決定の支援をより強化し、教員採用試験の早期化など教職に関する情報提供をさらに充実する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

資料2-2-1 愛知学泉大学 キャンパスライフ「キャリア教育プログラム」 p. 86, pp. 91-92, p. 97.

資料2-2-2 愛知学泉大学 キャンパスライフ「リメディアル教育プログラム」 p. 86, pp. 91-92, p. 97.

資料2-2-3 教採対策ハンドブック

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3－1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

本学は、建学の精神及び教育理念に基づき、学部のディプロマ・ポリシー①「建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、ディプロマ・ポリシー②「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」を定め、そのうえで、3 学科それぞれのディプロマ・ポリシーを決めている。そして、教師としての資質・能力を身につけられるよう、カリキュラム・ポリシーを定めている。

ライフスタイル学科は「中学校教諭一種免許状（家庭）」「高等学校教諭一種免許状（家庭）」、管理栄養学科は「栄養教諭一種免許状」、こどもの生活学科は「小学校教諭一種免許状」「幼稚園一種免許状」を取得することができる。3 学科とも免許資格にふさわしい能力を求めており、それに対応した教職課程を構成している。

教職課程カリキュラムは各学科とも豊かな人間性の育成とともに、資格取得に必要な専門的知識・技能の修得として、講義・演習・実習の 3 タイプの授業を主に展開している。さらに、講義の中に模擬授業などの実践的な体験の機会を組み入れ、免許・資格に応じた専門教育プログラムを用意している。また、コアカリキュラムを踏まえた教育課程において、学生が主体的に学修できるように、3 学科とも教育課程における各科目の関連性を明確化した「カリキュラムマップ」を作成してホームページにて公開し、新入生ガイダンス等の機会に周知している。

教育課程の実施においては、GPA 制度を導入している。成績優秀者に対しては教員採用試験の大学推薦を受けやすくなることを伝えている。一方で、当該学期の GPA が低迷している学生に対しては、学生の学習意欲の向上及び適切な修学や進路指導に利用している。具体的には、当該学期の GPA が 1.0 未満の学生に対し、学生自身の履修計画の指導や、指導教授等の面談による修学指導に利用している。

教育課程にあるすべての科目のシラバスは学内教務システム (Active Academy Advance) において公開されている。シラバスは教務委員会が策定したシラバス作成要項に従って作成され、授業の概要と方法・授業の目標・授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）・評価方法等を示している。各項目においては、令和 3 年度の教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等の改正において、教職課程全体を通じた ICT 活用指導力の育成への取組が重要視されていることを踏まえ、ICT の積極的な活用、アクティブ・ラーニン

グの推奨、ディプロマ・ポリシーに基づく学習成果との関連の記載、評価項目による配分の割合、課題（試験、レポート等）に対するフィードバック方法の明示等を求め、教務委員等によるチェックのもと適宜修正の上、前期履修登録前に公開している。

[長所・特色]

教職課程プログラムとして、ライフスタイル学科では、教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、中学校、高等学校の教諭（家庭）免許が取得できるカリキュラムを編成している。管理栄養学科では、教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、栄養教諭免許が取得できるカリキュラムを編成している。こどもの生活学科では、小学校・幼稚園の教諭免許を取得するための教科教育カリキュラムを編成し、教育の現場で活躍するための専門的知識・技能を学修している。3学科とも、講義に加え事例研究・模擬授業・集団討議・ロールプレイング等、課題解決的な実践的な学修方法を取り入れている。

具体的には、①学生同士、学生と教員とのコミュニケーションを重視する対話型授業、②グループワークを取り入れ、発表を重視する協力・協働型授業、③知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意志を引き出すような啓発型授業を実践している。その学修成果については、学期末テストだけでなく、レポートや小テスト、作品提出、学修発表などによって定期的に理解度・習熟度を確認し評価を行っている。また、ディプロマ・ポリシーの能力形成を評価できるルーブリックを用いて、評価の可視化を行っている。

実習にあたっては、教職課程委員会で検討し、実習のための心構え等を示した実習の手引きを作成し学生に事前指導に活用している。教務課は、この手引きを実習校に郵送し、どのような事前指導がなされたかについて明確に示している。尚、指導にあたっては、実務経験のある教員をできる限り配置している。

[取り組み上の課題]

ここでの課題は、教職課程科目における模擬授業のさらなる充実である。小学校等の学校で行われる授業は45～50分単位となっている。教職課程を履修した学生は、教育実習では、2～3週間の間に、10時間以上の授業を経験する。また卒業後、正規採用、講師採用に関わらず、すぐに教壇に立ち授業を行う。本学では3学科とも、模擬授業は、教職課程カリキュラムの各科目に適切に位置づけられている。しかし、時間的に、繰り返し模擬授業を行う時間は生み出されていない。今後、教職課程カリキュラム外に、学生同士が切磋琢磨しながら自主的に模擬授業を公開し合う時間と場所の設定が必要である。

＜根拠となる資料データ等＞

資料 3-1-1 カリキュラムマップ

資料 3-1-2 愛知学泉大学 シラバス(2023 年度版)

資料 3-1-3 愛知学泉大学 キャンパスライフ「GPA 制度について」 pp76-77.

資料 3-1-4 愛知学泉大学 実習の手引き

基準項目 3－1 実践的指導力養成と地域との連携

〔現状説明〕

本学は、平成 25 年より「旭地区と愛知学泉大学との連携協力」を締結するなど、地域社会との連携事業の推進に努めている。豊田市の北東部に位置する旭地区は、本学のそばを流れる矢作川上流部にある。令和 5 年 4 月 1 日時点で、旭地区の人口は 2,375 人、世帯数は 1,041 世帯の高齢化が進む過疎地である。このような地域への人的交流と奉仕活動を目的としたボランティア活動が 1 年生の共通科目教養分野で「未来へつなぐアウトリーチ」として開講している。

教員を志す学生にとって、「未来へつなぐアウトリーチ」は、本学の「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神と社会人基礎力と pisa 型学力を発揮する最適の機会となっている。旭地区と協働する体験を通して、コミュニケーション能力・感謝の念・マナーを守る・責任ある行動等の教員として重要な資質が培われている。また、発表の機会を設定しており、プレゼンテーション能力の育成にもつながっている。

実習については、愛知県教育実習（小・中学校）私大協議会が教育委員会や私立連盟等と定期的な協議を開催し、平等で円滑な受け入れ先の配当や教員養成における現状や課題の共有・意見交換を行うなど連携協力の体制を整えている。また、教員の实習先への訪問指導では、実習生の指導のみならず、これから実習へ行く学生の指導に生かせるように留意点などを聞き出す機会としている。その他のボランティアは、学校の科目に位置付けられている小学校エクスターンの他に、教育活動の一環として自主的に取り組むことができるように、常に情報を提供している。

〔長所・特色〕

教育実践現場の理解や実践的指導力の涵養を図る機会を用意している。例えば、子育て支援の場である「岡崎げんき館」においては、学生が主体となって『学泉のお姉さん・お兄さんと遊ぼう』を企画・運営している。ボランティアでは、名古屋市のトワイライトスクール、児童福祉施設、放課後児童クラブ等、子どもと関わる体験をしたりする活動を推奨している。多くの学生はアルバイトをしているが、学習塾の先生や体操教室等、教えることを学ぶ機会を選択するよう推奨している。いずれも子どもの活動を観察するなど、実習だけでは学ぶことができない貴重な体験になっており、正課における現場実習の学びを深める機能を果たしている。

[取り組み上の課題]

ここでの課題は、実践的指導力養成のために各体験等と教職課程履修の連関の弱さである。本学科では、実践的指導力養成のために、未来へつなぐアウトリーチ、各ボランティア等、を通して、社会が教育に何を要請しているか、学校現場が何を求めているかを理解するために、様々な体験活動の奨励、及び地域の教育現場で教職に就いている卒業生たちから教職課程を履修している学生が話を聞く機会を設けている。それぞれ、それらの体験に伴うワークシートへの記入を行っているが、そのことが、教職に就いたときにどのように還元されていくかについての視点に欠けている。各体験等と教職課程履修の連関を明確にし、教職課程履修の学生の意欲付けにつなげる必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

資料3-2-1 愛知学泉大学と豊田市旭地区連携協力に関する協定書

資料3-2-2 あさひげんき通信 2023年5月号

Ⅲ 総合評価

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、本学の建学の精神及び教育理念、及び大学ディプロマ・ポリシーを踏まえた各学科の教育理念に基づいた教職課程を実施している。教職員の共通理解に向けては、各年度初めの学部会議において、前年度末に策定した教職課程委員会の目的「教職課程履修者に対し、教育目標に基づいた教職指導を行い、教員免許を取得させるとともに、教職希望を実現する」と、目標「①小学校教諭・家庭科教諭・栄養教諭の採用増、②高校訪問、入試広報等により小学校教諭を希望する入学生の確保、③教職採用試験に向けて、採用試験に向かう学修意欲の強化、④各学科全教員による組織的な体制で教職指導の取組」を示した。また、目標に応じた事業計画を4つの時期「前期1・前期2・後期1・後期2」に分割し、各時期で取り組む内容を全教員に提示した。そのことにより、漠然としていた教職指導は、より具体的になっている。3学科で教職課程教育の目的・目標を共有するために、4つの時期ごとに事業計画実施を評価している。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」においては、3学科の教職課程に関するアドミッション・ポリシーに沿う学生を募集している。学生の確保については、3学科とも「学生募集要項」「なるには講座」、「高校訪問」、「新入生ガイダンス」「オープンキャンパス」などを通じて、本学の教職課程の特徴を説明している。オープンキャンパスでの教職に関するミニ授業が、入学の動機になっている学生が多い。学生の育成では、各種の免許取得に向けて、講義に加え事例研究・模擬授業・集団討議・ロールプレイングを多様な授業方法を工夫し、教職を志望する学生への意識の涵養に努めている。多様な授業方法は、実際に教職に就き、学校現場での授業方法のモデルとして役立っていることを卒業生から聞いている。キャリア支援においては、入学直後からはじまる「リメディアル教育プログラム」や、大学生活を通して行われる「オフィスアワー制度」、「学校等のボランティア」、「教職シンポジウム」などが、教職に関するキャリア意識の醸成に役立っている。ただし、教育現場への就職が少数であることは課題である。その一因として教職を目指す進路決定が遅いことが挙げられる。今後、早い時期からの教職を目指す意識化を図ることが重要である。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」においては、シラバス等、カリキュラムは定期的に見直している。2022年度より、こどもの生活学科では、教育実習をこれまでの4年前期から3年後期に変更した。教員養成系大学では3年次での教育実習が一般的であること、これまでのよりも早い時期での実施により、教員就職への意識を高められること、

教員採用試験の日程前倒しに対応することが変更の主な理由である。変更による影響を調べて、他学科での実施の可能性などを検討することが課題である。「実践的指導力養成と地域との連携」においては、カリキュラムに位置付けて可能な範囲で充実を図っている。今後、大学生活のなかで生み出せる時間は、教職課程カリキュラム外で学生同士が切磋琢磨しながら自主的に教職に取り組む場の設定である。その核に、教職センターが設立され位置付けられるとよいと考えている。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教職課程自己点検評価報告書の作成に当たっては、令和4年4月に開催された愛知学泉大学評価委員会において、次の手順で進めることを確認した。

- 第1プロセス：実施方針及び実施手順(自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む)を提案し、検討する。
- 第2プロセス：各学科の教職課程カリキュラムやシラバス内容を含む教育活動の法令由来事項について点検する。
- 第3プロセス：各学科の教職課程委員は、それぞれの教職課程の自己点検評価の進め方(観点や収集資料等を含む)を検討する。
- 第4プロセス：教職課程の自己点検評価の実施について最終確認する。
- 第5プロセス：各学科の教職課程委員と協働して自己点検評価を実施し、活動成果をもとに報告書を作成する。
- 第6プロセス：自己点検評価報告書を最終確認した後、愛知学泉大学評価委員会は、承認したうえで、情報を公表する。
- 第7プロセス：自己点検評価活動によって確認した大学全体の事業計画の一部として改善を策定する。

V 現況基礎データ一覧

令和6年4月1日現在

設置者					
学校法人 安城学園					
大学・学部名					
愛知学泉大学 家政学部					
学科名					
管理栄養学科・こどもの生活学科・ライフスタイル学科					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業者数					111
② ①のうち、就職者数 (企業・公務員等を含む)					104
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)					31
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					9
④ のうち、正規採用者数					6
④ のうち、臨時的任用者数					3
2 教員組織 (令和5年5月1日時点)					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	18	9	7	3	